

みどりのこえ



発行 長野県環境保全研究所
令和2年(2020年)9月20日

編集 長野県環境保全研究所 自然環境部(飯綱庁舎)
〒381-0075 長野市北郷 2054-120
TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
E-mail:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp



北米の持続的森林管理下で伐採された木材でできたギターの背面
(濃い茶色に見える部分がサクラ材、肌色に見える部分がカンバ材)

森とギター

最近では学生の研究の興味もあり、ツキノワグマなどの哺乳類や気候変動で分布を北上させている熱帯・温帯性の海洋性魚類、はたまた長野県内にも分布拡大しているコクチバス、ブラウントラウトなどの外来魚から、初夏の開山時期に大合唱しているエゾハルゼミ、世界中のマングローブからインドの山奥のクロコショウなど、様々な生物種を対象に、集団遺伝学的な研究を展開している。とはいえ、もともとは長野県の県木である白樺も含めたカバノキ属樹種を主な対象にした森林研究をしてきた。色々な生物種を対象にしている今も、最終的には森林生態系を考えながら研究している。

森林研究者がなぜ森林の研究をするのかは人それぞれだと思うが、私の場合は、もともと自然が好きだったということもあるが、木は高校生以来いまだに熱中しているギターの材になるから、ということも大きな理由である。“エレクトリック・ギターの音なんてどの木使っても同じでしょ？”とよく言われるが、そんなことはない。ボディをメイプル(カエデ)、アルダー

文・写真 津田 吉晃

(ハンノキ)、アッシュ(トネリコ)、マホガニーにするか、ネックの材をどうするか(メイプル、マホガニーなど)、ネックの指板をどうするか(エボニー、ローズウッド、メイプル)で、かなり音は変わる。また木目を眺めるのもギターの楽しみの1つである。しかし、同時にこのようなことから残念ながらギター生産と違法伐採木材利用が絡む事件が起こることもあり、ギター・プレイヤーも森林、有用樹種の持続可能的管理を考慮する必要があると思っている。また今後、気候変動下で世界の森林樹木がどのように分布を変えるのか、どのように管理、保全すべきも考えるべきと思いながら、今シーズンも新型コロナウイルス感染症に注意しながら県内外の山岳地域のカバノキ属樹種の分布調査、遺伝解析を行いたい。

(つだ よしあき

／筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所・准教授)



Contents

【巻頭言】森とギター(津田吉晃/筑波大学準教授).....	1
【What's New】「長野県版外来種対策ハンドブック」紹介.....	2
「長野県の気候変動とその影響」パンフ紹介.....	3
【みどりのフカヨミ】	
新型コロナウイルスの流行と生物多様性、外来種問題.....	4
【Information】市民調査アプリ「自宅でセミ調べ2020」.....	6

【Information】Webサイト「日本の生物多様性地図化プロジェクト」...	7
【Report】2020年「セミの抜け殻調査」報告.....	8
【信州自然ガイド】No.9 中央アルプス 千畳敷〜極楽平.....	9
【Books案内】『侵略の生態学』チャールズ・S・エルトン著.....	10
『奄美のノネコ』鹿児島大学鹿児島環境学研究会編.....	11
【お知らせ】信州自然講座・サイエンスカフェ/編集後記.....	12